

日本テスト学会  
2021年3月28日

# 高大接続と共通試験

荒井克弘

# 概 要

- 高大接続とは何か
- 共通1次試験とセンター試験
- 大学入学共通テストの政策意図

# 高大接続について

- 「接続」は教育課程のつながりを意味する
- 大学入試には“教育と選抜の側面”がある

(佐々木享,1978)

- 日本の教育は、戦後の新学制に変わってから、選抜への関心が高く、接続問題への関心は低かった
- 少子化が進み、受験競争の緩和が進んだ90年代、「高大接続」へ注目が集まった

# 英・仏・独の「高大接続」

## 英・独・仏の伝統的な高大接続（複線型）



Jose Ben David, 1977 *Center of Learning*, The Carnegie Foundation  
(天城 勲 訳, 1982『学問の府』) サイマル出版会

# 欧州諸国の高大接続

進学型中等教育機関；

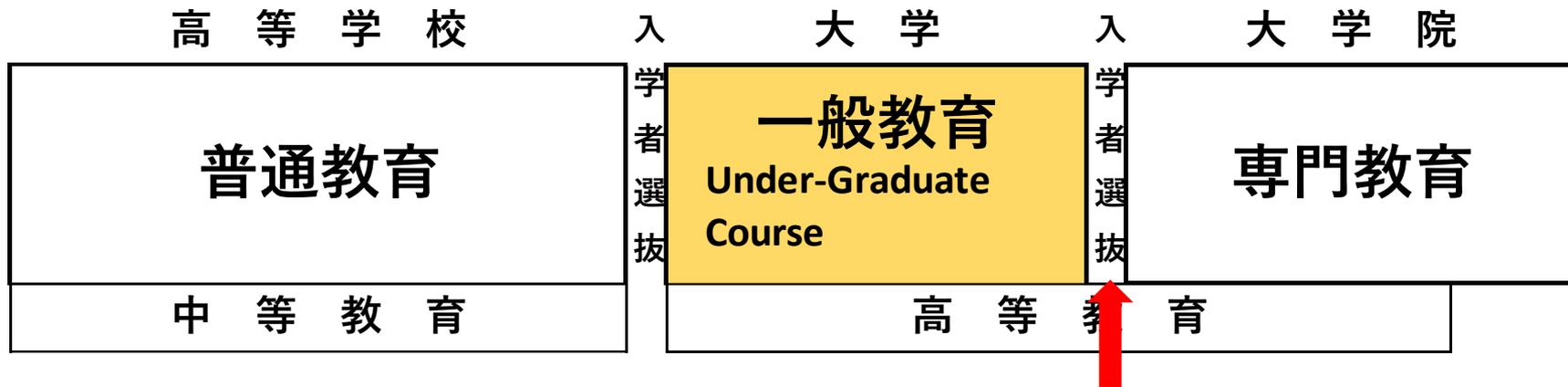
後期中等教育に「**進学準備課程**」を置き →  
資格試験 → 大学教育（専門教育）

進学準備課程；

普通教育から大学への専門教育に移行させる  
ための誘導（一般教育）

# アメリカの高大接続

## アメリカの高大接続（単線型）

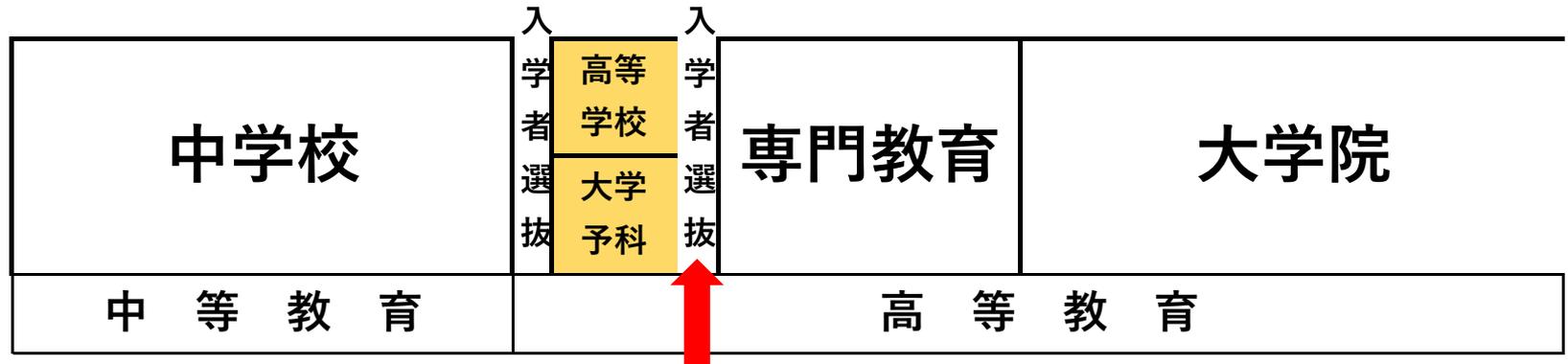


アメリカでは大学進学とは‘大学’へ入学することであって、専門学部に入学者選抜するわけではなかった

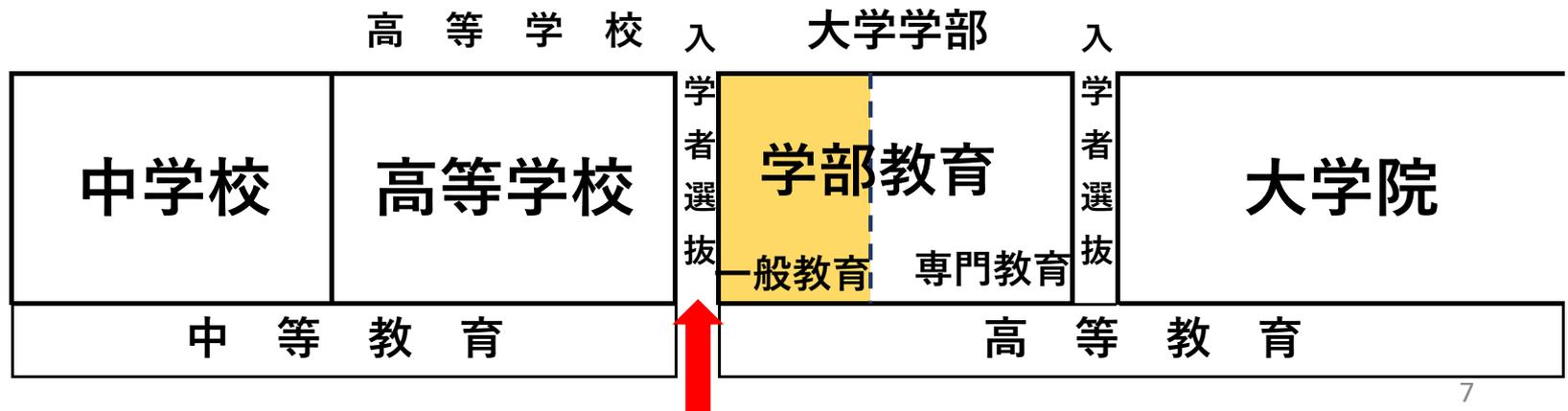
# 日本の高大接続

## 日本の高大接続

### 旧学制（1944）（複線型）



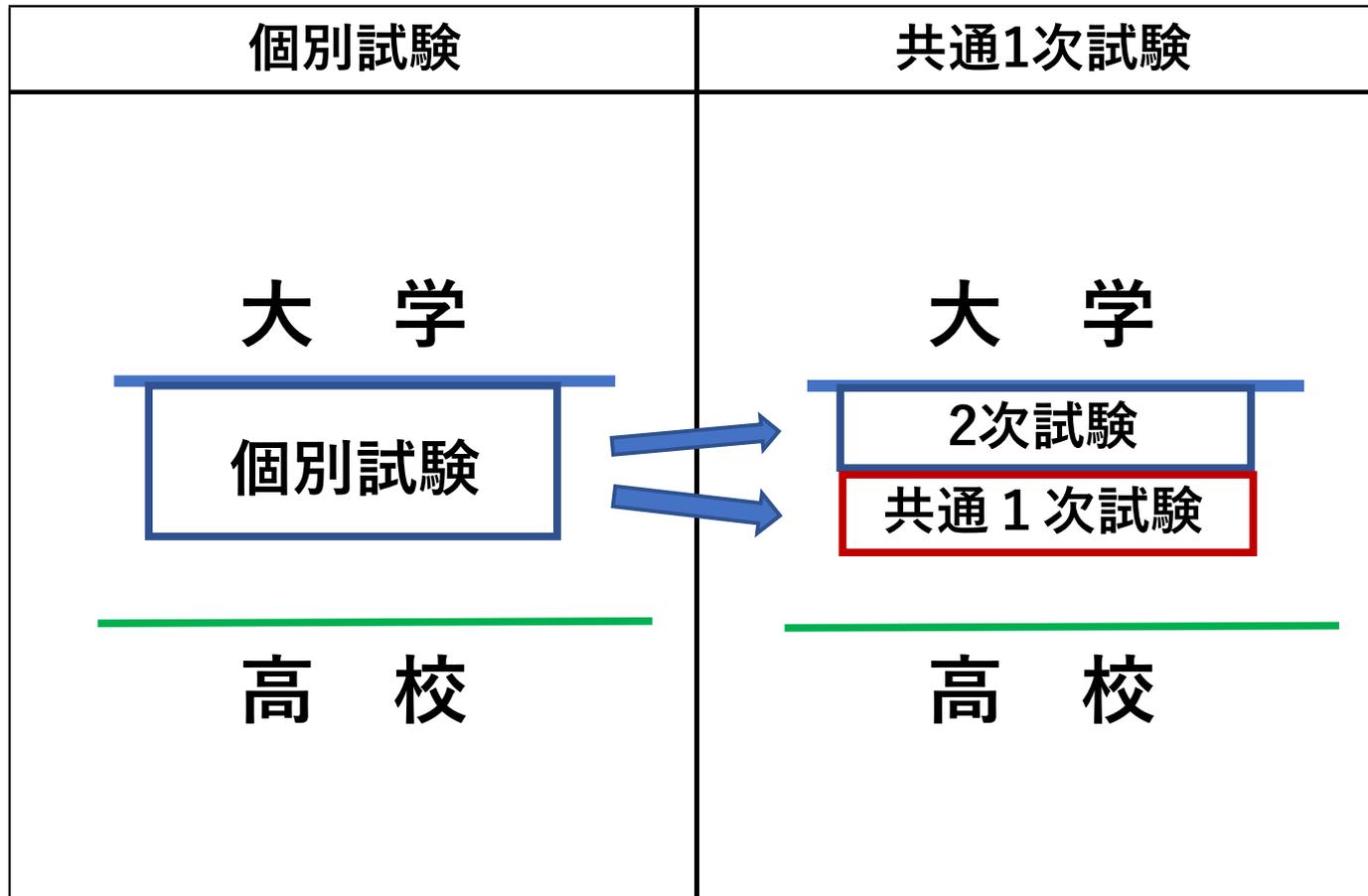
### 新学制～現在（単線型）



# 戦後日本の大学進学

- 進学予備課程（旧制高等学校、大学予科）の廃止
- 高等学校と大学の上に**仲介課程がなく**、大学入試（競争選抜）によって**直に専門学部へ接続する**
- 大学入試の障壁が高く、入学の合否は激しい競争選抜になった
- **高校教育と大学教育の異質性**が論じられることが少なく、高校教育の受験教育への偏り、大学入試の受験競争の加熱に注目が集まった
- 高校科目と学術研究領域の対応に十分な配慮がなされいたとはいえない

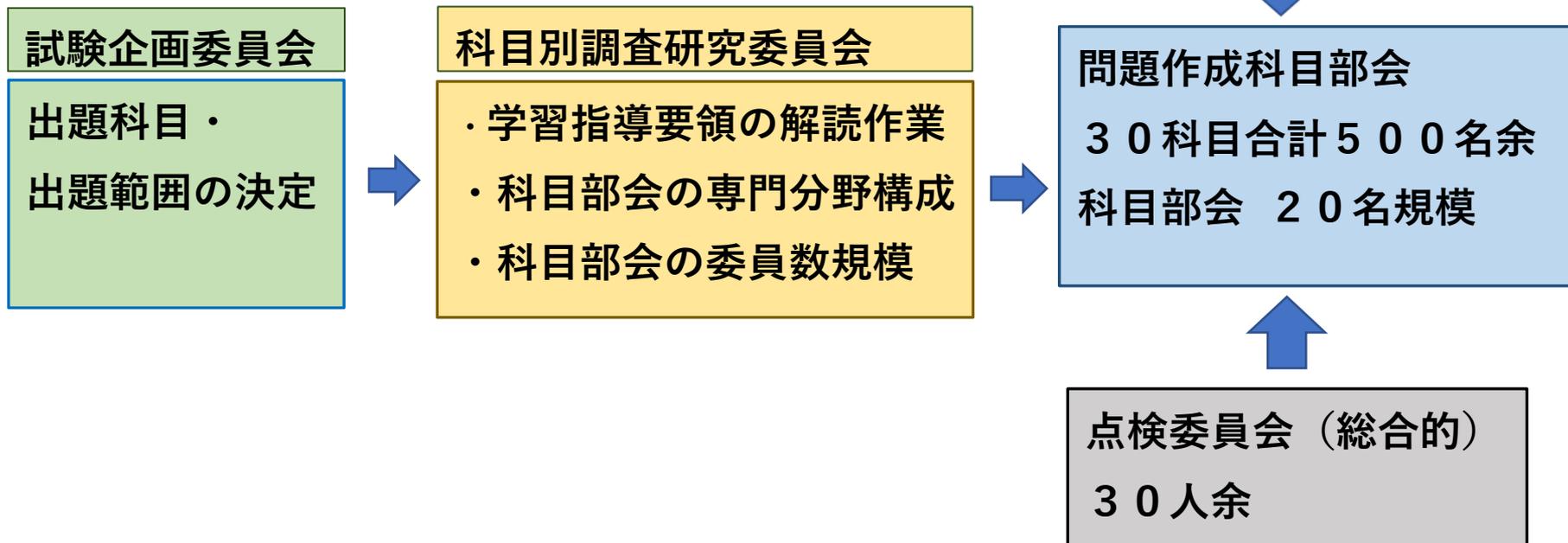
# 共通第1次学力試験の導入



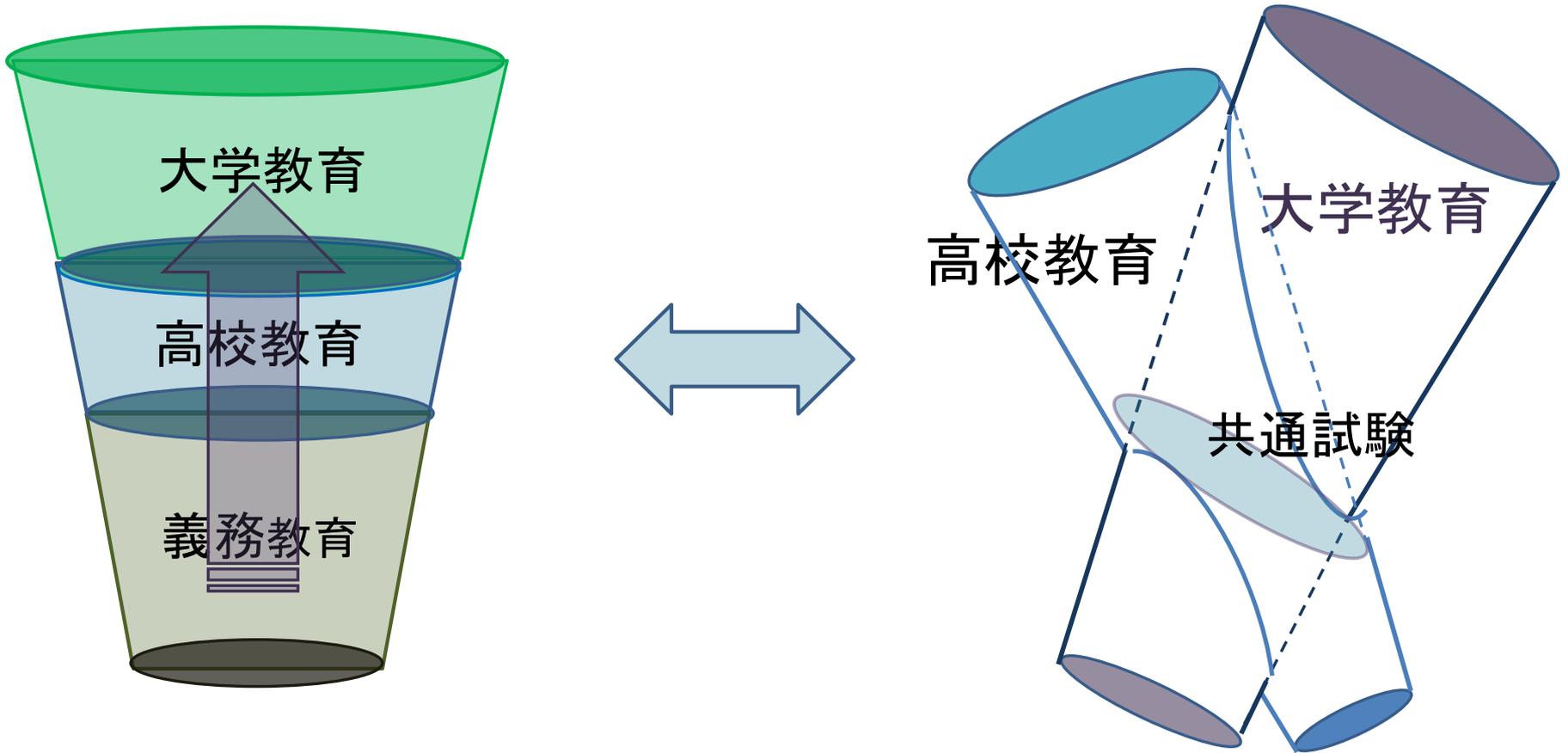
# 共通試験における高大接続の確立

- 高校科目と学領域の接続システムの確立
- 高校教育の是正（一律5教科受験）

## 共通1次・センター試験の作題体制



# 高校科目と学領域の対応関係



# センター試験制度の内なる 共通1次試験体制

## センター試験現役受験者（2018）

	国公立大 併願	国公立 大併願	私立大学 専願	小合計	未出願	合計
5教科受験	7.7	11.2	3.4	22.3	4.2	26.5
4教科受験	0.1	0.3	1.4	1.8	1.1	2.9
3教科受験	0.2	0.4	8.6	9.2	4.9	14.1
2教科受験	0.1	0	0.3	0.4	1.3	1.7
1教科受験	0	0	0	0	0.2	0.2
Total	8.1	11.9	13.7	33.7	11.7	45.4

(万人)

国公立大学現役出願者(20.0万人)のうち5教科受験者は94.5%

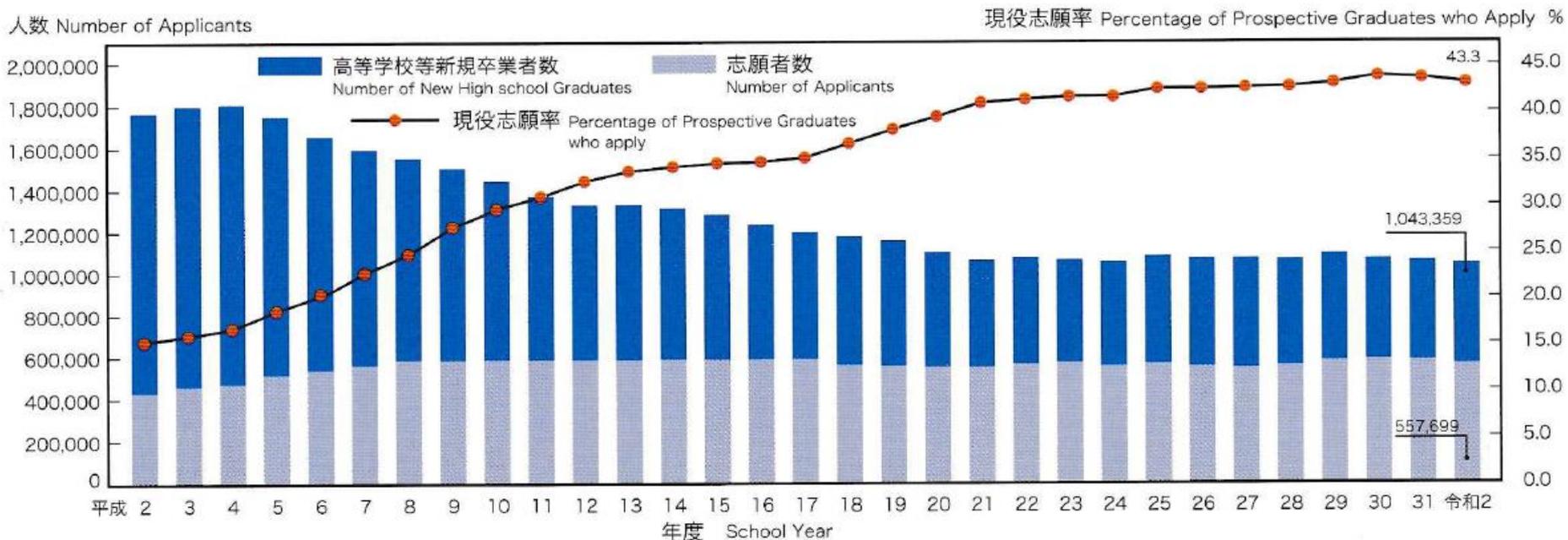
センター試験受験者(45万人)のうち5教科受験者は6割

しかし、高卒見込み者の6割はセンター試験を受けていない

# センター試験志願者数の推移

## ● 志願者数及び現役志願率の推移

Transitions in Number of Applicants and Percentage of Prospective Graduates who Apply



2019年

# センター試験の外側： 推薦・AO入試による入学者が半数

18歳人口: 118万人 (2018)

高校新卒者 → 大・短現役志願者 → 大・短現役入学者

106万人

65万人

58万人

過年度卒 + 新卒者 → 大・短入学者総数

68万人

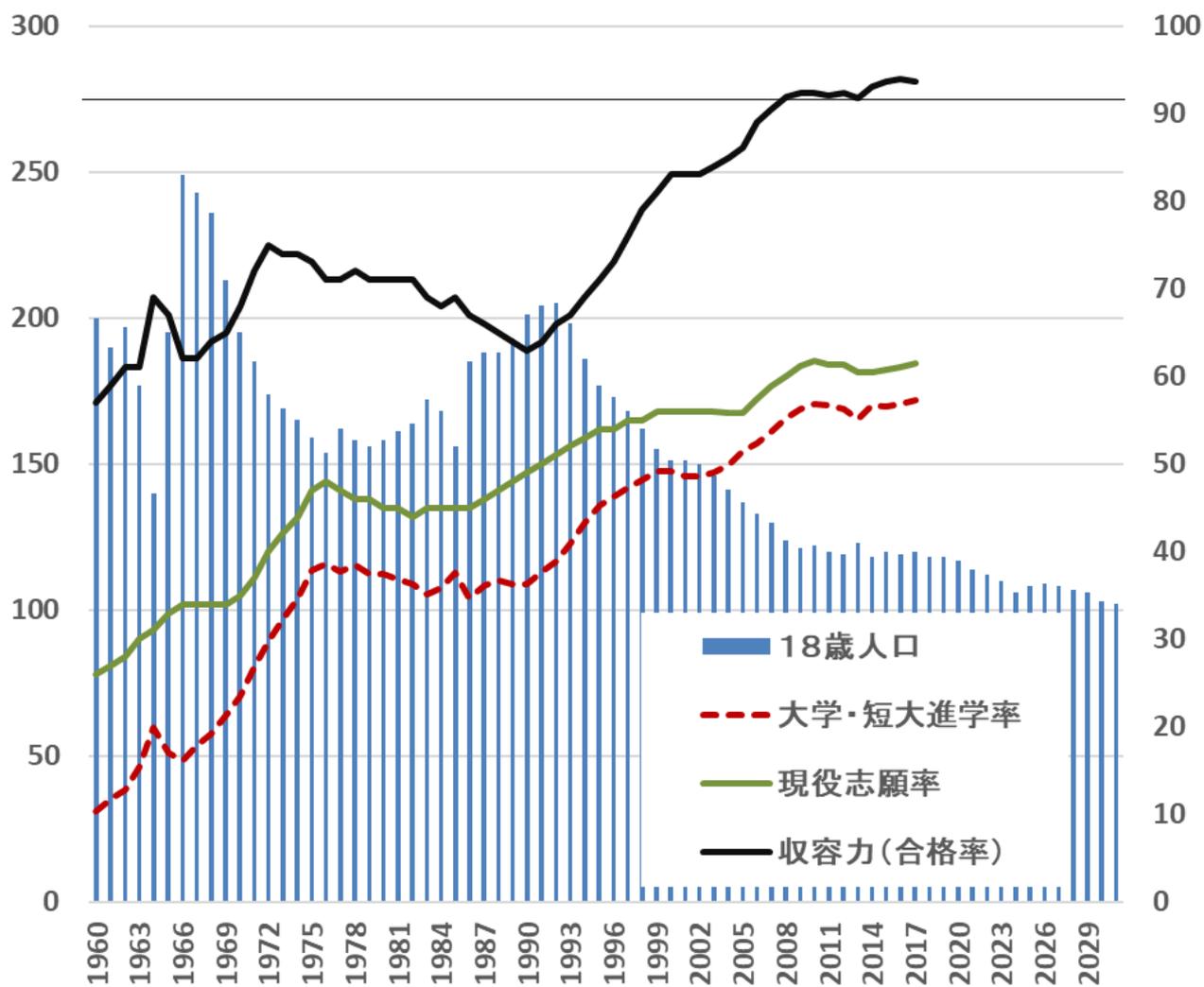
一般入試 34万人

推薦・AO 33万人

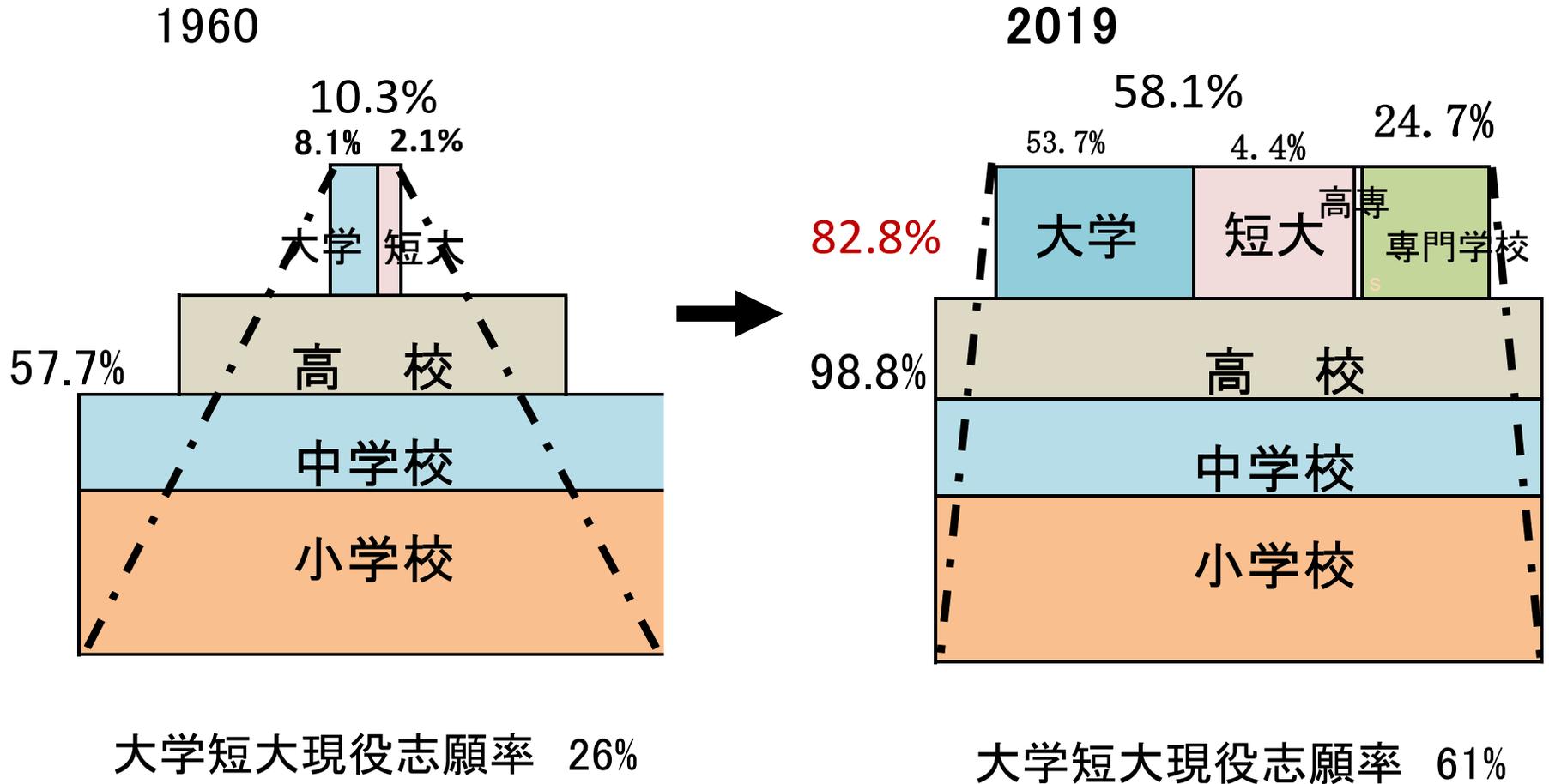
(その他) 1万人

出典 (文部科学統計要覧 (2018) 他)

# 志願者の全入化が進む大学短大

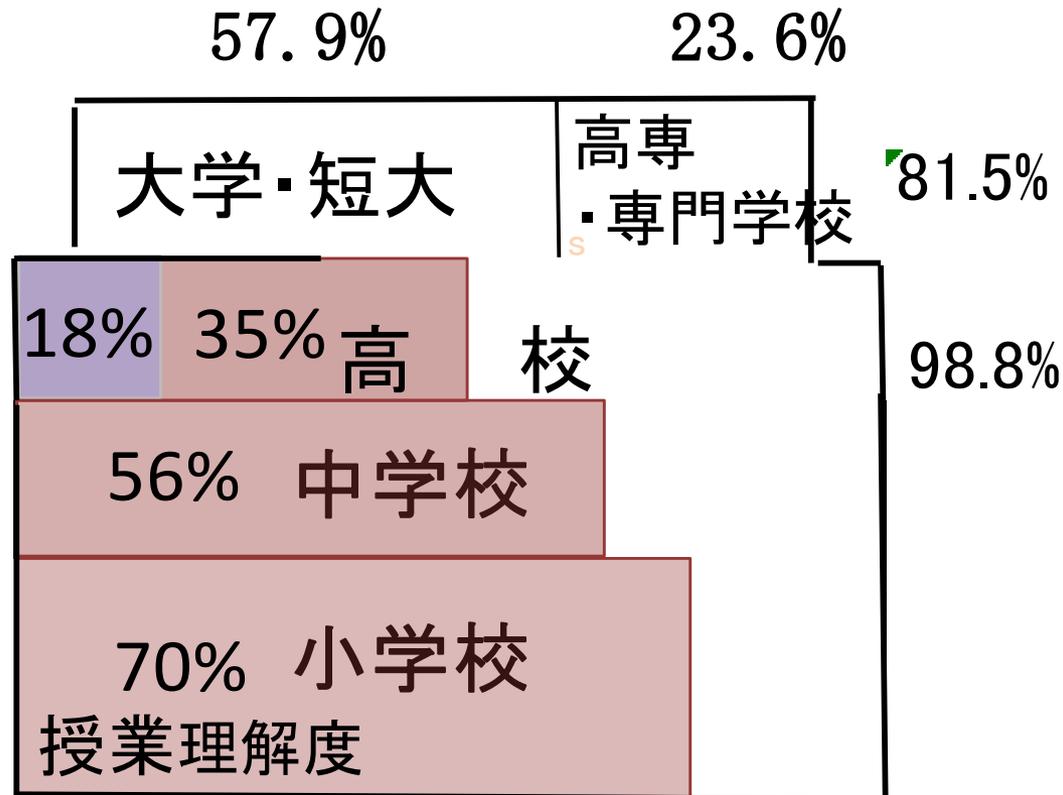


# 全入化した高校、 膨張する高等教育



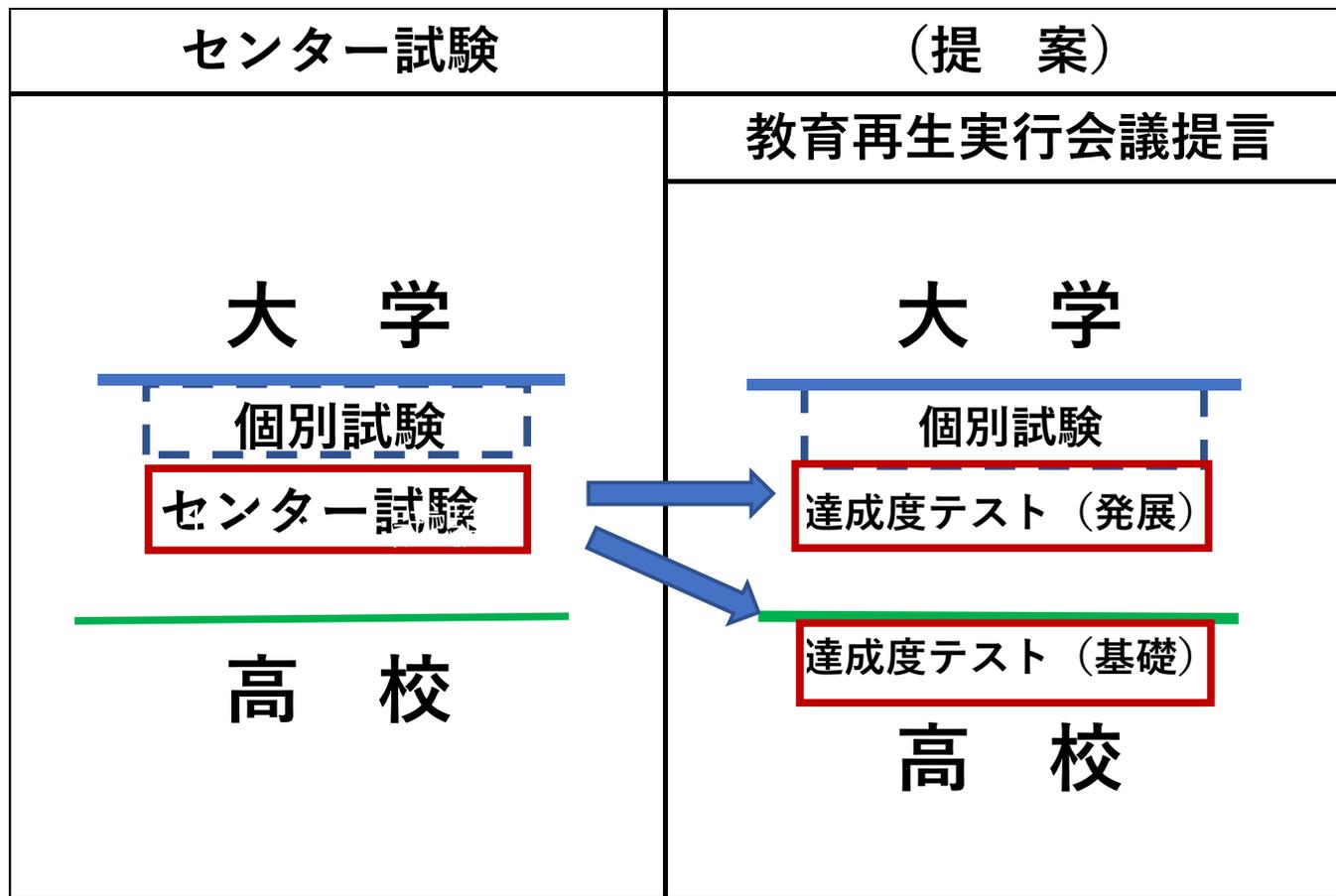
# ボーダレス化する高等教育進学

2018



授業理解度(よくわかる+だいたいわかる)  
 学習指導要領実施状況調査(2014, 15)

# 教育再生実行会議の提言



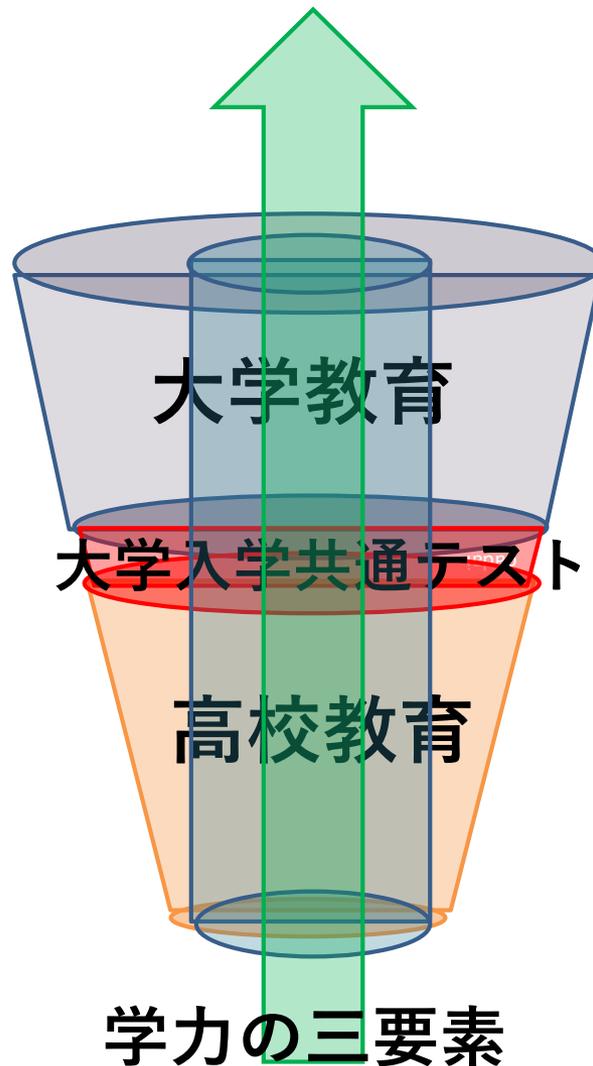
# 教育再生実行会議第四次提言

名称 (仮称)	達成度テスト	
	基礎レベル	発展レベル
目的	<p>高等学校教育の質の確保・向上、大学の人材育成機能の強化、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価する大学入学者選抜への転換を図る改革を行う。その一環として、高等学校段階における学習の達成度を把握し、高等学校の指導改善や大学入学者選抜に活用する新たなテストとして導入</p>	
機能・ 大学入 学者選 抜での 活用	<p>高等学校の基礎的・共通的な学習の達成度を客観的に把握し、学校における指導改善に活かす</p> <p>推薦・AO入試における基礎学力の判定に際しての活用を促進</p>	<p>大学が求める学力水準の達成度の判定に積極的に活用</p> <p>各大学で基礎資格としての利用を促進</p> <p>利用する教科・科目や重点の置き方を柔軟にするなど弾力的な活用を促す。</p>

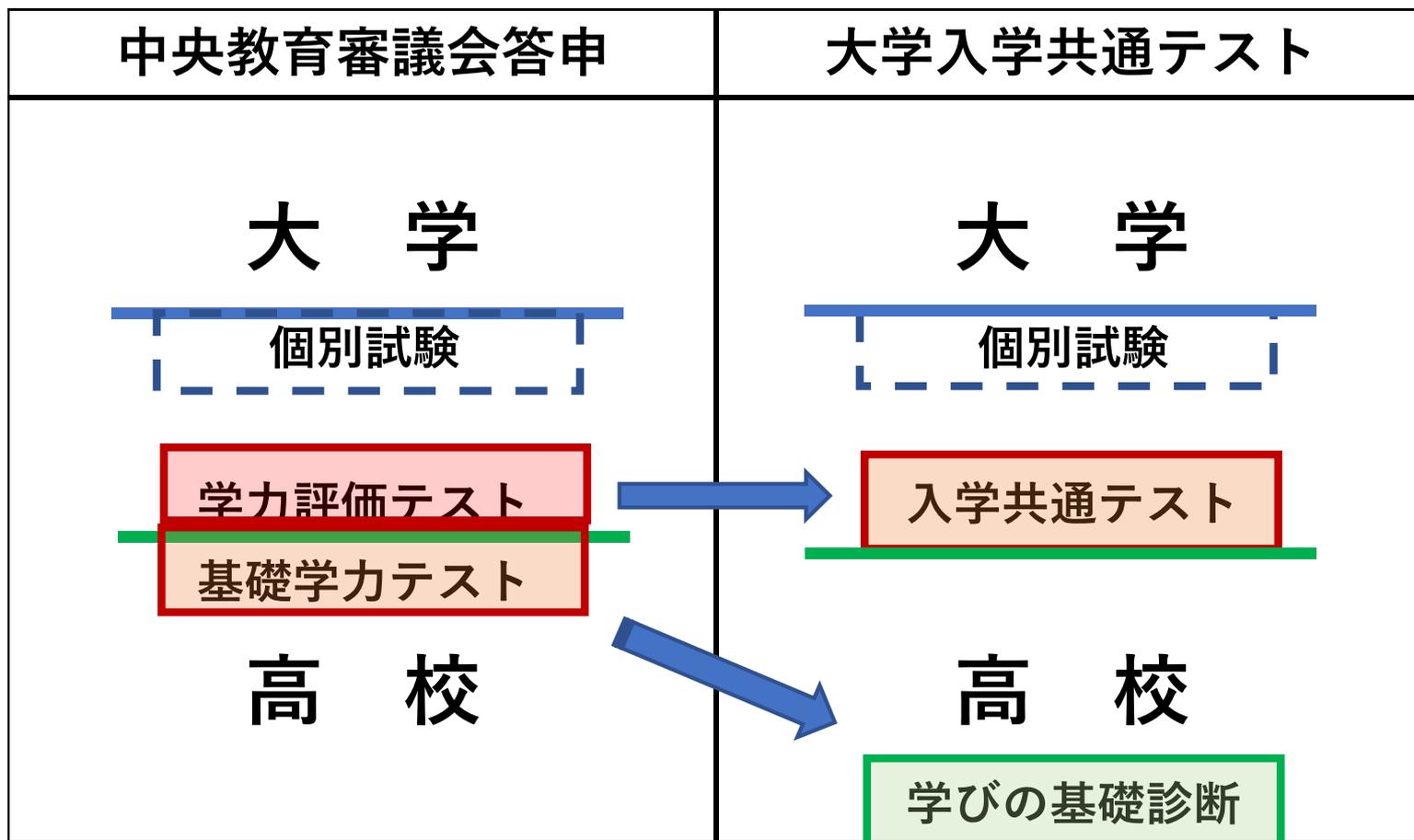
# 中教審（2014）：高大接続答申

<b>総称</b>	<b>学力評価のための新たなテスト（仮称）</b>		別添資料3
<b>実施主体</b>	大学入試センターを、「学力評価のための新たなテスト（仮称）」の実施・方法開発や評価に関する方法開発などの支援を一体的に行う組織に抜本的に改組。		
<b>個別名称</b>	<b>高等学校基礎学力テスト（仮称）</b>	<b>大学入学希望者学力評価テスト（仮称）</b>	
<b>目的・活用方策</b>	<p>○生徒が、<u>自らの高等学校教育における学習の達成度の把握及び自らの学力を客観的に提示することができるようにし、それらを通じて生徒の学習意欲の喚起、学習の改善を図る。</u></p> <p>＜上記以外の活用方策＞</p> <p>○結果を高等学校での指導改善にも生かす。</p> <p>○進学時や就職時に基礎学力の証明や把握の方法の一つとして、その結果を大学等が用いることも可能とする。</p> <p>※進学時の活用は、調査書にその結果を記入するなど、高等学校段階の学習成果把握のための参考資料の一部として使用。</p>		<p>○大学入学希望者が、<u>これからの大学教育を受けるために必要な能力について把握する。</u></p> <p><u>「確かな学力」のうち「知識・技能」を単独で評価するのではなく、「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力）」を中心に評価。</u></p>

# 学習指導要領による通貫モデル



# 中教審の高大接続答申（2014）



# 大学入学共通テストの解説

- 大学入学共通テストでは、各教科・科目の特質に応じ、知識・技能のみならず、思考力・判断力・表現力も重視して評価を行うものとする。各大学は、大学教育を受けるにふさわしい能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定することに資するため、それぞれの判断と創意工夫に基づき、これを適切に利用するものとする。

大学入学共通テスト実施大綱（令和元年6月4日 文部科学省高等教育局長通知、令和2年1月29日一部改正）

# 行政主導の高大接続改革への疑問

- 傍観者を続ける「実施主体」の大学
- 学習指導要領に牛耳られた大学入学共通テスト
- 作題体制の実質的改変（教育委員会関係者の作問部会への関与）
- 高大接続（大学教育への誘導）の混乱



- 資質・能力論の背後にある「教育の市場化」
- このような入学共通テストが必要とされているのか？

ご清聴

ありがとうございました。